

全国識字学級実態調査

おねがい

日頃よりの識字活動、人権擁護活動などにご多忙のことと存じます。また、昨年度から今年度にかけては、新型コロナウイルスパンデミックなどにより活動はさらに困難を強いられたものと思います。困難ななか、事業を展開されていることに敬意を表します。

さて、2010年に、わたしたちは識字学級の全国的な現状を把握するために調査を実施いたしました。今回の調査は2010年調査を引き継ぐものです。部落解放同盟中央本部、全国隣保館連絡協議会の協力をいただき、大阪教育大学、(一社)部落解放・人権研究所、識字・日本語センターの共同推進体制で実行委員会を形成し、実施します。新型コロナウイルスの影響がまだ深刻で、教室活動もままならない状態で実施することになり申し訳なく思います。**もしも、新型コロナがひろがる以前の2018年度または2019年度までは活動していて、それ以後、開けなくなった教室があるなら、その場合も、書ける項目だけでけっこうですからご回答ください。**

ご多忙のところ恐縮に存じますが、調査へのご協力をお願いいたします。後日、数は限られますが、電話や訪問によりお尋ねするインタビュー調査も予定しています。そのため、会場の所在地や担当者についても伺っています。ただ、調査結果は、主として統計的に分析を加えます。結果を公表する際には、個々の学級の名称や特徴などは出ません。学級に詳しい方が、ありのままをお答えください。

【回答にあたってのご注意】

- 1) 学級の運営委員や、隣保館や行政の識字担当者など、学級の実情を詳しくご存じの方がお答えください。
- 2) 複数の識字学級がある場合には、調査票をコピーして学級ごとにお答えください(重複する内容は、お答えいただかなくてもかまいません)。
- 3) 調査票の電子ファイルをご希望の場合、識字・日本語センターのウェブサイトからダウンロードしてください。
URL(<https://call-jsl.jp/2021zenkoku>)に掲載しています。
- 4) 2021(令和3)年10月1日現在の状況をお答えください。質問によっては、2020(令和2)年度の状況や2018(平成30)年10月1日の状況、この5年間ほどを念頭にお尋ねしている項目もあります。
- 5) 締め切りは、**2021年10月31日**です。当日までに投函くださるようお願いいたします。回答が届かない場合には、こちらからさらに回答をお願いすることがありますので、ご了承ください。
- 6) ご回答いただいた内容について、後日調査研究の担当者より電話などで問い合わせることがあります。その際にも、ぜひご協力ください。

全国識字学級実態調査実行委員会
委員長 森 実

〈連絡先〉 大阪教育大学 地域連携・教育推進センター 岡田耕治気付 全国識字学級実態調査実行委員会事務局
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
Fax. 06-7635-7821 / e-mail address: okada575@gmail.com

※本調査は、科学研究費助成事業 基盤研究(C)21K02171「日本における成人基礎教育を展望する被差別部落の識字活動に関する実証的研究」により実施します

学級の基本的なことからについて、お伺いします

1) 学級の基本的なことからについてご記入ください。

※1つの地域または1つの会場で複数の識字学級がある場合には、調査票を学級数の分だけ、必要枚数コピーして学級ごとにお答えください。

学級の名称	
開設年 ※休止した期間などあれば、その旨ご記入ください	西暦 年
開催曜日 ※毎週か、隔週かもご記入ください	毎週・隔週 曜日
開催時間帯	時 分 ～ 時 分
開催場所(会場)名	
所在地	〒
最寄駅・バス停からの距離	最寄駅・バス停 _____ 線 _____ 駅 最寄駅・バス停からの距離 _____ メートル
開催場所の電話番号	
主催	
ウェブサイト(URL)	

2) 2020年度、2018年度には、何回ぐらい開催しましたか。次のうち、それぞれいずれか1つに○をつけてください。

2020年度		2018年度	
1	10回未満	1	10回未満
2	10~19回	2	10~19回
3	20~29回	3	20~29回
4	30~39回	4	30~39回
5	40回以上	5	40回以上

学習の形態や内容について、お伺いします

*問3～問7は、この5年間ほどを念頭においてお答えください。

3) 学級・教室でおもに取り入れている学習形態について、次のうちから当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

※なお、この調査で「支援者」とは、一般的に「講師」「ボランティア講師」「学習パートナー」などと呼ばれる人びとの総称です。

- ア 1対1での学習(学習者1人につき、支援者が1人ついて学ぶ)
- イ グループ学習(数人でひとつのグループになって学ぶ)
- ウ 全体学習(全員でひとつの話題について学んだり、一緒にものを作ったりする)
- エ その他(具体的に:)

4) 全体学習ではどのような活動をしていますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

- ア 部落問題など人権課題についてみんなで一緒に学ぶ
- イ 社会で起こっていることを学ぶ
- ウ 学級の通信(学級内のニュース)を発行する
- エ 文集をつくる
- オ 文章の読み合わせ(輪読)をする
- カ 自分たちの学級の歌を歌う
- キ 「解放歌」や「母は闘わん」などを歌う
- ク 楽器演奏などの音楽活動をする
- ケ 調理活動をする
- コ セタなど季節に応じた活動をする
- サ 共同での絵画やレリーフなど作品づくりをする
- シ 日帰りで社会見学や遠足を行う
- ス 宿泊を伴う研修や社会見学を行う
- セ 地域の文化祭・祭りなどに参加する
- ソ 行事で発表する歌や群読の練習をする
- タ 他の教室との交流会を行う
- チ パネル展やチラシ配布など啓発活動をする
- ツ その他(具体的に:)

5) 個々の学習者の学習内容についてお伺いします。学習者のなかで次のような内容を学んでいる人がいますか。当てはまるものがあれば、いくつでも○をつけてください。

- ア よみかきの初歩
- イ 計算の初歩
- ウ 日本語の初歩
- エ おしゃべり・会話活動
- オ 生い立ちや生活をふりかえる文章の執筆
- カ 生活と人権や差別との関わり
- キ 絵画や工作などの創作活動
- ク 買い物など、ふだんの暮らしに必要なことから
- ケ 仕事に必要なことから
- コ 自動車免許やヘルパーなど資格の取得
- サ 日本語能力試験などへの準備
- シ 日本や諸外国の生活や文化
- ス 学校の勉強の予習や復習
- セ パソコンの使い方
- ソ スマートフォン・携帯電話の使い方
- タ 社会で起こっていること
- チ 詩や俳句などの文芸活動
- ツ その他(具体的に:)

6) 学級では、次のような学習教材を使っていますか。使っているものにいくつでも○をつけてください。

- ア 学習者の書いた文章
- イ 新聞や広報紙(誌)
- ウ 団体などの機関紙(誌)
- エ 広告やチラシ
- オ 小・中学生用の教科書やドリル
- カ 外国人向け日本語教材
- キ 教室で独自に創った教材
- ク 仕事や役所、学校などの書類
- ケ その他(具体的に:)

7) 学級では、特にどのような学習教材を使っていますか？ よく使っている教材について、**最大で10種類**まで下の枠内にお書きください。

例：『生きた字がほしいんや』（自主教材、1996年作成）

『よみかき教室文集』（自主教材、毎年作成）

『ひらがなにっき』（解放出版社、市販の絵本）

「解放新聞●●版」

学習者について、お伺いします

***問8～問12は、2018年度の数字もご記入ください。**

8) 学級の学習者として、何人が登録していますか。学習者の出身国または地域(該当国・地域がない場合、空欄にご記入ください)、年齢別に人数をご記入ください(枠が足りない場合、このページをコピーしてお使いください)。上段の空欄に現在の人数を、下段のかつこ内に 2018 年度の数をお書きください。「全体」には、すべての性別を含めた総数をご記入ください。

出身国 または 地域	性別	年 齢 (歳)										合計
		0 ~15	16 ~19	20 ~29	30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80~	不明	
日 本	全体	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	男	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	女	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
韓国・ 朝鮮	全体	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	男	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	女	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
中 国	全体	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	男	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	女	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	全体	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	男	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	女	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	全体	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	男	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	女	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()

9) 登録者のうち、同和地区の外に住んでいる人の人数をご記入ください。

2021 年度 _____ 人 2018 年度(_____)人

10) 登録者のうち、「障害」のある人の人数をご記入ください。

2021 年度 _____ 人 2018 年度(_____)人

11) ふだん学級には、何人ぐらいの学習者が来ていますか。それぞれいずれか 1つ に○をつけてください。

2021 年度	2018 年度
1 0~4 人	1 0~4 人
2 5~9 人	2 5~9 人
3 10~19 人	3 10~19 人
4 20 人以上	4 20 人以上

12) ふだんの学習活動に学習者から参加費(特別な行事への参加費は除きます)を徴収していますか。それぞれいずれか 1つ に○をつけてください。

2021 年度	2018 年度
1 徴収している	1 徴収している
2 徴収していない	2 徴収していない
3 その他 具体的に:	3 その他 具体的に:

支援者（講師、ボランティア講師、学習パートナーなど）について、お伺いします

*問 13～問 15 は、2018 年度の数字もご記入ください。

13) 支援者の職種別、性別の人数をご記入ください。左側空白に現在の人数を、かっこ内に 2018 年度の人数をお書きください。また、「全体」には、すべての性別を含めた総数をご記入ください。

職種など	男	女	全体
1 家事専業	()	()	()
2 現職教員	()	()	()
3 退職教員	()	()	()
4 教員以外の退職者	()	()	()
5 パート・アルバイト	()	()	()
6 自営業者	()	()	()
7 公務員	()	()	()
8 会社員・団体職員	()	()	()
9 学生	()	()	()
10 その他	()	()	()
合 計	()	()	()

14) 支援者に対して、行政から謝金（交通費を含みます）が出ていますか。それぞれいずれか 1 つに ○をつけてください。

2021 年度	2018 年度
1 すべての支援者に出ている	1 すべての支援者に出ている
2 過半数の支援者に出ている	2 過半数の支援者に出ている
3 半数以下の支援者に出ている	3 半数以下の支援者に出ている
4 運営の中心になる 1～2 人だけに出ている	4 運営の中心になる 1～2 人だけに出ている
5 だれにも出していない	5 だれにも出していない

15) 問 14 で「1～4」のいずれかに○をつけた学級に、お伺いします。1 人につき 1 回あたりのおおよその謝金額をご記入ください。

2021 年度 _____ 円

2018 年度 _____ 円

運営の実態や課題について、お伺いします

*問16～問25は、この5年間ほどを念頭においてお答えください。

16) 学級では、次のような会議を開催していますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。また、開催している会議については、年間のおおよその開催回数もご記入ください。

- ア 全体会議(学習者・支援者みんなで話し合う) ⇒年間おおよそ()回開催
イ 学習者会議(学習者みんなで話し合う) ⇒年間おおよそ()回開催
ウ 支援者会議(支援者みんなで話し合う) ⇒年間おおよそ()回開催
エ 運営委員会(学級について数人で話し合う) ⇒年間おおよそ()回開催
オ いずれも開いていない

17) 問16で「エ 運営委員会」に○をつけた学級にお伺いします。運営委員会などの構成員はどのような人ですか。当てはまる項目にいくつでも○をつけてください。

- ア 学習者
イ 支援者(講師、ボランティア講師、学習パートナーなど)
ウ 運動団体の担当者
エ 施設の担当職員
オ 行政の担当職員
カ その他(具体的に:)

18) 学習者を募集するために、どのような方法を使っていますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

- ア 市町村の広報紙(誌)
イ 市町村や施設のホームページ
ウ 学級の独自の広報紙(誌)やチラシ
エ 学級の独自のホームページ
オ 自治会など市町村内の団体を通じて
カ 支援者や学習者の口コミ
キ その他(具体的に:)

19) 支援者を募集するために、どのような方法を使っていますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア 市町村の広報紙(誌)

イ 市町村や施設のホームページ

ウ 学級の独自の広報紙(誌)やチラシ

エ 学級の独自のホームページ

オ 自治会など市町村内の団体を通じて

カ 支援者や学習者の口コミ

キ その他(具体的に: _____)

20) 市民に識字学級について啓発するために、どのような方法を使っていますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア 市町村の広報紙(誌)

イ 市町村や施設のホームページ

ウ 学級の独自の広報紙(誌)やチラシ

エ 学級の独自のホームページ

オ 自治会など市町村内の団体を通じて

カ 支援者や学習者の口コミ

キ 集会や講座

ク 写真や作品の展示

ケ 映像教材

コ その他(具体的に: _____)

21) 学級を運営していくうえで、困っているのはどんなことですか。次のうち、当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

- ア 運営のための予算が足りない
- イ 部落の学習者が集まらない
- ウ 学習者が高齢化してきた
- エ 新しい学習者が来ても定着しない
- オ 支援者(講師、ボランティア講師、学習パートナーなど)が集まらない
- カ 新しい支援者が来ても定着しない
- キ 支援者が高齢化してきた
- ク どんな学習教材があるのかわからない
- ケ 学習者にぴったりの学習内容や教材がわからない
- コ 学習教材を手に入れにくい
- サ 他の識字学級でのとりくみを知らない
- シ 支援者が教え方などを学べる機会がない
- ス 学級の会場を確保するのが難しい
- セ 教材を保管できる場所がない
- ソ 学級を広く知らせることができない
- タ 学習者が暮らして困っていることを解決できない
- チ その他(具体的に: _____)

22) 学級では、差別事象があった場合に対応する方針はありますか?いずれか1つに○をつけてください。

- 1 対応のための文書化されたガイドラインがある
- 2 文書化はされていないが対応の方針はある
- 3 特に方針やガイドラインはない
- 4 その他(具体的に: _____)

23) 今後、行政に求めたい支援などがありますか？当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

- ア 運営に対する財政的な支援
- イ 支援者（講師・ボランティア講師・学習パートナー）の情報提供
- ウ 学習教材に関する情報提供
- エ 学習教材の提供
- オ 生活情報や学習教材などのルビ打ちと多言語化
- カ 映像や学習教材などのデジタル化
- キ 先進的事例の情報提供
- ク 支援者研修の機会の提供
- ケ 学級の会場確保
- コ 学級の周知や広報
- サ 行政への手続きなどについて相談できるしくみ
- シ 学習や活動について相談できるしくみ
- ス その他（具体的に： _____)
- セ 特に求めることはない

24) 新型コロナウイルス感染が拡大して、教室はどのように変化しましたか。次の項目のうちあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- ア コロナ感染が広がって以来、まったく教室を開けていない
- イ 教室での活動を休止した期間があった
- ウ 学習者が減った
- エ 支援者が減った
- オ いわゆる「3密」を避ける対策を行った
- カ 消毒用アルコールや体温計などを設置した
- キ オンライン学習を導入した
- ク 特に変化はなかった
- ケ その他(具体的に: _____)

25) 新型コロナ感染が拡大して、次のような学習者は教室にいましたか。わかる範囲でけっこうです。当てはまる項目にいくつでも○をつけてください。

- ア 感染しないかと不安が大きい
- イ 家族や親戚のことが心配だ
- ウ 外出などが制限され、孤立した
- エ 学習したくてもしにくくなった
- オ 失業した
- カ 仕事が減った
- キ 仕事が忙しくなった
- ク 特別定額給付金についての情報がわかりにくかった
- ケ ワクチン接種についての情報や予約の仕方が分かりにくい
- コ 「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」などの違いがわかりにくい
- サ その他(具体的に: _____)

対象としてきた地区（同和地区）の特徴について、お伺いします

26) 同和対策事業で対象としてきた地区数はいくつありますか。地区数をご記入ください。

_____地区

27) (複数地区を対象とする場合は合計の) 世帯数はどのくらいでしょうか。いずれか1つに○をつけてください。

- 1 5世帯未満
- 2 5~9世帯
- 3 10~49世帯
- 4 50~99世帯
- 5 100~299世帯
- 6 300~999世帯
- 7 1000世帯以上
- 8 不明

28) それぞれの地区の立地条件はいずれにあてはまるでしょうか。おもなもの1つに○をつけてください。

- 1 農村
- 2 漁村
- 3 山村
- 4 都市近郊
- 5 都市
- 6 その他(具体的に: _____)

最後に、ご回答くださったあなたご自身について、お伺いします

29) あなたは次のうち、どの立場でしょうか。いずれか1つに○をつけてください。

- 1 学習者
- 2 支援者(講師、ボランティア講師、学習パートナーなど)
- 3 運動団体の担当者
- 4 施設の担当職員
- 5 行政の担当職員
- 6 その他→(具体的に: _____)

30) 回答いただいたあと、実行委員会から連絡が必要になったときのために、学級の連絡先などについてお教えてください。

①担当者名

②電話番号

③FAX番号

④Eメールアドレス

⑤電話で問い合わせをする場合、連絡のつきやすい曜日・時間帯をご記入ください。

調査にご協力くださり、ありがとうございました。識字学級・識字活動について日頃より感じられていることがありましたら、何でも結構ですので、次の空欄にご記入ください。また、学級の歴史や概要がわかる冊子や教室から生まれた文集、差別事象への対応ガイドラインなど、関連する資料がありましたら調査票に添付してご返送ください。

【例】学級開設に至る経緯、学習者・支援者の変遷、一般施策化されてからの識字学級の位置づけの変化、これからの識字のあり方、運動団体の関わり方…

最後までご協力いただきまして、ありがとうございました